

外里富佐江（著）

宮沢賢治の童話でまなぶ ココロの寄り添い方

福 田 恵美子

（長野保健医療大学，特任教授）



小学校の教科書に載っている宮沢賢治の「おきなぐさ」と「やまなし」を題材にして、忘れかけている幼いときの感性を目覚めさせてくれる書籍が出版されました。宮沢賢治をこよなく愛する著者は、賢治と同郷の盛岡出身。解答を自ら見いだす童話の世界から学ぶことで人間性豊かな教授となられたのでしょう。表紙に「大切な人が苦しんでいるとき、伝えたいことは何ですか」という問いかけの後、賢治の「知識だけでは人は共感しない」と「あとがきにかえて」で、学びのSTEAM（STEAM）化を経済産業省の研究班が提言し、「一人ひとりのわくわくする感覚をよびさまし、文理を問わず教科知識や専門知識を習得することの大切さを示していると触れています。本書は正にそれらの言葉を体現してくれているのではないでしょうか。

著者は後輩指導の経験から、専門教育に特化したカリキュラムでは対象者の役に立つセラピストは育たないと実感し、本書の執筆に

至っているのではないのでしょうか。教育改革後に大学本来の教養教育が希薄になっているのも事実です。そのことが人と向き合う仕事では人間力の欠落になることを懸念していたのではないのでしょうか。専門知識の暗記ではその人に合った対応ができず、専門知識の押し売りになるため対象者に力不足であることを見抜かれてしまいます。

このような意図を理解して本書を読まれると、ひとときわ愛着を感じると思います。

本書の特徴は、可愛いイラストの風の又三郎君を通して自ら考え、自分の意見を投げかけ、仲間と対話ができるように組まれていることであると理解できます。「この本の使い方」に始まり、「課題」が提示され、種々の意見交換ができるようになっています。そして資料には、ワークブックとフィードバック用紙が配置され、学んだ足跡が残っていくでしょう。資料4と5では、著者のリハビリスタッフの研修会体験を解答

例として載せてあります。親切な水先案内構成で、長年の教員歴の賜物と感じた次第です。

いつの時代も若者言葉で仲間と意気投合している若者が、言葉の通じない年配者を時代遅れとして軽視しています。会話はできますが、「対話」ができない現象が生じているのではないのでしょうか。「対話」は相手を尊重することで成り立ちますので、言葉による表現が、どのような人や年代においても通じ合えるようにする取り組みも必要になってくるでしょう。このような意味でも、本書を活用して「対話」に取り組みたら素晴らしいと思いました。

あらためて、自然を種々の角度から見て表現する能力と感性、それを読み解く能力と感性、宮沢賢治の残してくれたものに触れられたひとときでした。

B5判 112頁 2,700円＋税
シービーアール 刊
☎ 03-5840-7561